国営かんがい排水事業

西濃用水第三期地区
概要書

（岡島頭首工:揖斐川上流側から撮影）

東海農政局
西濃用水第三期農業水利事業所

① 西濃用水地区の事業経緯

本地区の用水は古来より揖斐川とその支流及びため池、地下水等に依存してきました。一方、揖斐川の扇状地に拓けた地域であるために、かんがい用水の地下への浸透がはなはだしく、河川は渇水流量※1が少なく、ため池、地下水等の水源も不安定であるため干ばつにしばしば襲われる地帯でした。その上、経済成長等に伴い地下水利用が増え、揖斐川本川の河床低下も加わって地下水位が低下し、ますます水不足に悩まされるようになっていました。

堀田※2と伊吹山

掘りつぶれ※2を行く田舟

写真出典：大垣市輪中館（河合孝氏撮影）

マンボ（地下水を集める横井戸）※3

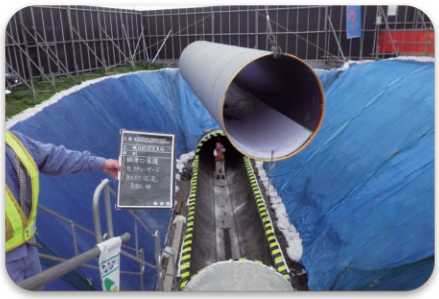
このため昭和 43 年度から昭和 58 年度に『国営西濃用水土地改良事業』を実施しました。揖斐川上流の横山ダム※4（特定多目的ダム）に水源を確保し、中流部に農業用水の取水施設である岡島頭首工を新設するとともに、取水した水を農地へ運ぶための幹線用水路と水管理施設を建設しました。また、この国営事業を契機に、県営事業により支線水路の建設や農地の整備（ほ場整備事業）が行われ、地区の南部では農地の排水改良（湛水防除事業）が実施され、農業の近代化が図られました。

しかし、造成された施設は30年以上が経過し、利用環境の変化や施設の老朽化が見られるようになり、突発的な漏水事故等の増加、漏水に起因する道路の陥没等の二次災害が発生し、施設の補修や維持管理など多大な費用と労力を要していました。このため、緊急性の高い施設を対象に平成21年度から平成26年度に『国営西濃用水第二期土地改良事業』を実施しました。

※1：1年を通じて355日はこれを下回らない流量
※2：輪中の中でも土地（農地）の低い地域では排水が悪く、収穫に悪影響が出るため、土地の一部を掘って別の場所に積み上げ、そこで稲作を行う「堀田（ほりた）」が作られ、掘った場所は「掘りつぶれ」と呼ばれる水路として、収穫した作物を運ぶために利用されていました。
※3：マンボは地中にしみ込んだ水を集めて用水として利用するために地下に掘られた横穴です。「西濃用水」整備以前は地域の水源として重要な役割を担っていました。
※4：当初は横山ダムを水源としていましたが、徳山ダム完成後（平成20年5月）は水源を徳山ダムに振り替えて管理・運用されています。

岡島頭首工着工前の状況
（昭和40年当初）

岡島頭首工の完成状況
（昭和51年）



パイプインパイプ工の状況
（西濃用水第二期土地改良事業）